

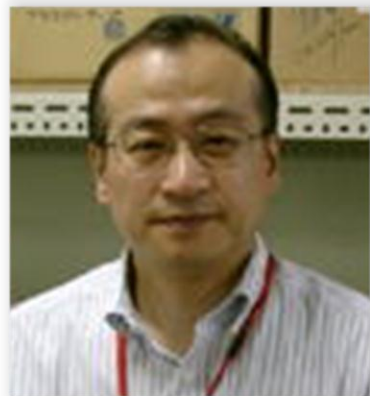
第47回シグナル伝達医学グローバルCOE学術講演会

日時：2011年8月12日（金）17：00～

場所：外来診療棟4F A講義室

滝川 修 先生

(独)国立長寿医療研究センター
認知症先進治療開発センター
治療薬探索研究部リード分子探索 研究室
ラジオアイソトープ管理室(兼任)



アルツハイマー病根本治療薬の開発を目指して

<要旨>

認知症患者の大半を占めるアルツハイマー病(AD)の根本治療薬の開発は喫緊の課題である。現在、アミロイド仮説に基づきアミロイド β 蛋白($A\beta$)の産生を抑制する β -及び γ -セクレターゼ阻害剤や神経毒性の本体とされる $A\beta$ オリゴマー形成阻害剤の開発が精力的に進められている。また、神経細胞死に直結するタウ蛋白凝集阻害薬の開発も進行中である。しかし、臨床試験で有効性を示す薬剤は未だ得られていない。これらに加え、 $A\beta$ に対するワクチン療法や抗体療法などの免疫療法も検討されているが、これまでのところ、必ずしも、期待通りの結果は得られていない。

国立長寿医療研究センターにはこれまでのADの基礎研究から生まれた創薬シーズが少なからず蓄積している。この蓄積を活かしADの根本治療に繋がる候補化合物をセンター自ら開発することを目指して、平成22年4月に認知症先進治療開発センターを設立し治療薬探索研究部を設けた。高速で薬剤スクリーニングを行うロボットシステムなどの設置が完了し、本格的な探索研究が開始されようとしている。本学術講演会ではAD根本治療薬の開発状況と当センター内の創薬シーズの紹介やAD治療薬の開発に有用なタウ蛋白凝集体のPETプローブの創生など、治療薬探索研究部の戦略を述べる。



担当：消化器内科学分野 吉田 優(PHS:71507)
連絡先：「次世代シグナル伝達医学の教育研究国際拠点」
シグナル伝達医学グローバルCOE事務局

TEL：078-382-5370 E-mail：gcoestm@med.kobe-u.ac.jp

